

株式会社 堀場製作所

2018年12月期 第2四半期 決算説明会

代表取締役会長兼グループCEO 堀場 厚
代表取締役副会長兼グループCOO 齊藤 壽一

2018年8月6日

説明内容

- 2018年12月期 上期 決算概要
- 2018年12月期 通期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- 株主還元
- その他トピックス

※本プレゼンテーションにおける2015年の実績は、2016年に変更した収益認識基準に遡及適用後の値を記載しております。

< 免責事項 >

本プレゼンテーション資料には、株式会社堀場製作所の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測です。また経済動向、他社との競争状況、為替レートなどの潜在的リスクや不確実な要因も含まれています。その為、実際の業績、事業展開または財務状況は今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、為替レート、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な要因により、記述されている将来予測とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

説明内容

- **2018年12月期 上期 決算概要**
- 2018年12月期 通期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- 株主還元
- その他トピックス

2018年上期の振り返り

外部 環境	◆ 世界的な貿易摩擦 ◆ 米国の継続的な利上げによる新興国通貨安 ◆ 半導体需要活況も、設備投資は一時的な落ち着き ◆ 自動車の電動化、排ガス規制の強化
内部 状況	◆ 北米拠点強化(半導体・科学) ◆ 阿蘇工場拡張後の本格稼働 ◆ 次世代自動車技術への積極投資 ◆ 上場来高値更新、HORIBA株の時価総額4,000億円突破

2018年12月期 上期決算概要

売上高、利益、中間配当いずれも過去最高を達成

P&L

- ◆自動車と半導体セグメントが前年同期比で大幅増収増益
- ◆半導体は、第1四半期に比べて第2四半期スローダウン

B/S

- ◆総資産は、棚卸資産の増加により+28億円の2,687億円
- ◆有形固定資産は、円高により▲6億円の680億円
- ◆自己資本比率は57.1%

(2017年12月末比)

CF

- ◆利益計上などにより、営業CF: +124億円
 - ◆設備投資などにより、投資CF: ▲44億円
 - ◆配当金の支払などにより、財務CF: ▲43億円
- } フリーCF: +79億円

2018年12月期 上期実績

(単位:億円)

	2017年上期	2018年上期					
	実績	期首予想 (2/13)	前回予想 (5/9)	実績	VS 前年同期	VS 期首予想	VS 前回予想
★ 過去最高							
売上高	873	960	1,020	★ 999	+126	+39	▲20
営業利益	97	118	148	★ 140	+43	+22	▲7
営業利益率	11.1%	12.3%	14.5%	14.1%	+3.0p	+1.8p	▲0.4p
経常利益	95	115	145	★ 137	+41	+22	▲7
親会社株主に帰属 する四半期純利益	64	77	97	★ 105	+40	+28	+8
USD(円)	112.34	110.00	110.00	108.67	▲3.67	▲1.33	▲1.33
ユーロ(円)	121.66	130.00	130.00	131.55	+9.89	+1.55	+1.55

2018年12月期 上期実績(セグメント別)

(単位:億円)

	売上高							営業利益						
	2017年 上期	2018年 上期						2017年 上期	2018年 上期					
	実績	期首 予想 (2/13)	前回 予想 (5/9)	実績	VS 前年 同期	VS 期首 予想	VS 前回 予想	実績	期首 予想 (2/13)	前回 予想 (5/9)	実績	VS 前年 同期	VS 期首 予想	VS 前回 予想
★: 過去最高														
自動車	306	330	350	★327	+20	▲2	▲22	21	22	27	★24	+3	+2	▲2
環境	80	80	80	★92	+11	+12	+12	3	3	3	8	+5	+5	+5
医用	123	130	130	131	+7	+1	+1	8	8	8	10	+1	+2	+2
半導体	247	290	330	★323	+75	+33	▲6	67	85	110	★102	+34	+17	▲7
科学	115	130	130	125	+10	▲4	▲4	▲4	-	-	▲5	▲1	▲5	▲5
合計	873	960	1,020	★999	+126	+39	▲20	97	118	148	★140	+43	+22	▲7

説明内容

- 2018年12月期 上期 決算概要
- 2018年12月期 通期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- 株主還元
- その他トピックス

2018年市場環境の想定

自動車		日本・アジアを中心とした排ガス規制強化や、電動化・自動運転技術開発の加速により、自動車関連メーカーの投資意欲旺盛
環境		新興国での環境規制強化による需要増 原油価格上昇による石油産業の投資回復
医用		国内：開業医市場の需要は堅調 海外：新興国では血液検査需要拡大
半導体		半導体デバイスの中長期的視点での需要は底堅く、 年末に向けての投資回復に期待
科学		企業の研究開発投資は旺盛 二次電池向けの新素材研究加速

2018年想定為替レート

(単位:円)

	2017年実績		2018年					
	上期	通期	前回予想 (5/9)	実績			下期 予想	今回予想 (8/3)
				1Q	2Q	上期		
USDドル	112.34	112.16	110	108.22	109.12	108.67	111	110
ユーロ	121.66	126.70	130	133.14	129.96	131.55	128	130

2018年予想: 1円円高による営業減益額(通期)

USDドル 2.0億円

ユーロ 0.2億円

2018年12月期 通期業績予想

(単位:億円)

	2017年	2018年					
★ 過去最高	実績	期首予想 (2/13)	前回予想 (5/9)	今回予想 (8/3)	VS 前年	VS 期首予想	VS 前回予想
売上高	1,953	2,100	2,180	★ 2,120	+166	+20	▲60
営業利益	268	290	340	★ 310	+41	+20	▲30
営業利益率	13.7%	13.8%	15.6%	14.6%	+0.9p	+0.8p	▲1.0p
経常利益	266	284	334	★ 304	+37	+20	▲30
親会社株主に帰属 する当期純利益	162	190	225	★ 215	+52	+25	▲10
一株利益(円)	386	450	533	509	+123	+59	▲24
ROE	11.5%	12.1%	14.3%	13.8%	+2.3p	+1.7p	▲0.5p

2018年12月期 通期業績予想(セグメント別)

(単位:億円)

	売上高							営業利益						
	2017年	2018年						2017年	2018年					
	実績	期首 予想 (2/13)	前回 予想 (5/9)	今回予想 (8/3)	VS 前年	VS 期首 予想	VS 前回 予想	実績	期首 予想 (2/13)	前回 予想 (5/9)	今回予想 (8/3)	VS 前年	VS 期首 予想	VS 前回 予想
自動車	733	790	790	★ 790	+56	-	-	76	80	80	★ 80	+3	-	-
環境	174	190	190	★ 190	+15	-	-	10	14	14	14	+3	-	-
医用	251	260	260	260	+8	-	-	19	20	20	20	+0	-	-
半導体	533	580	660	★ 600	+66	+20	▲60	156	170	220	★ 190	+33	+20	▲30
科学	261	280	280	★ 280	+18	-	-	4	6	6	6	+1	-	-
合計	1,953	2,100	2,180	★ 2,120	+166	+20	▲60	268	290	340	★ 310	+41	+20	▲30

★: 過去最高

自動車

2018年上期実績/通期予想

2018年上期実績

- + 排ガス** 欧州では新規制導入後も需要は堅調
中国・インドでは新規制導入に向けて需要増
- + MCT^{※1}** アジア向け比率増え収益性低下
- + ECT^{※2}** 次世代自動車技術に関するビジネス拡大

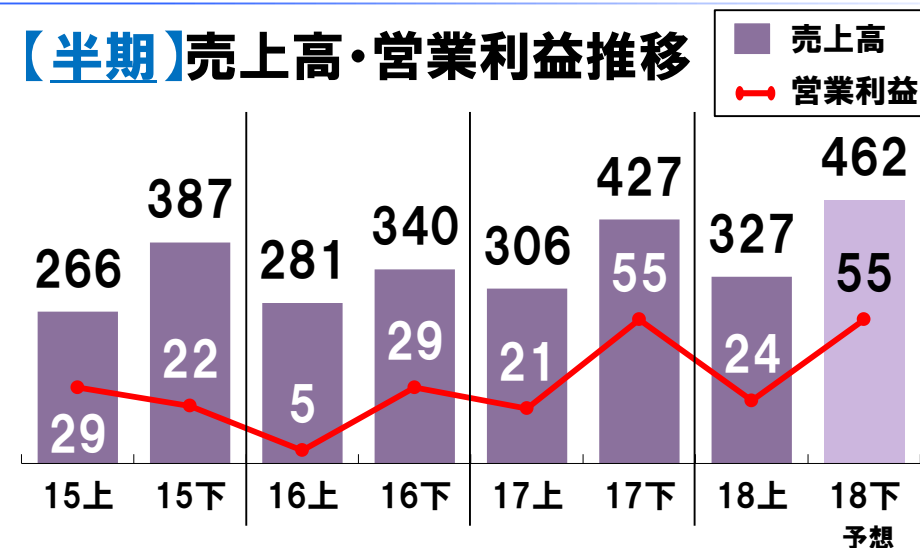
※1 Mechatronics
(自動車計測機器)

※2 Engineering Consultancy & Testing
(自動車開発全般に関するエンジニアリング・試験)

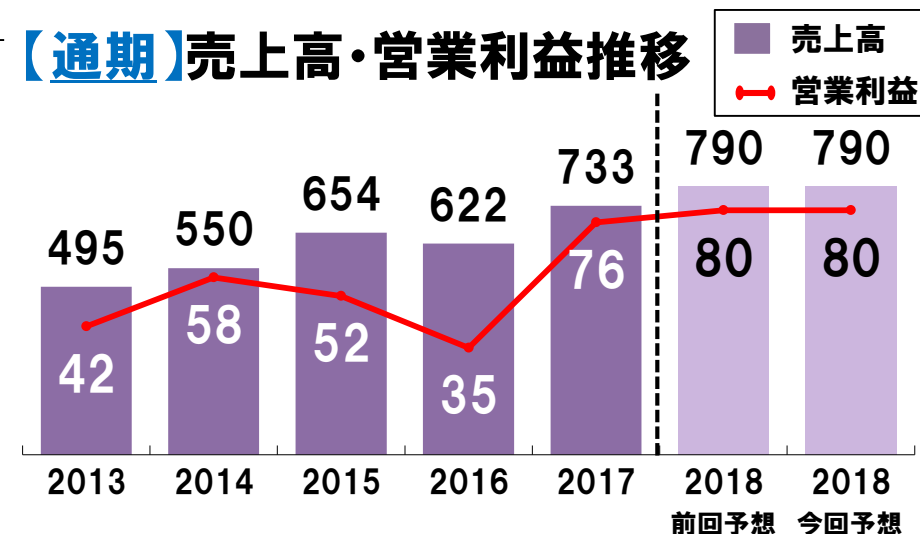
2018年通期予想

- + 排ガス** 中国・インドでの需要増
- + MCT** 欧州・アジア向け受注残の確実なデリバリー
- + ECT** 積極的な投資で更なる成長加速

【半期】売上高・営業利益推移



【通期】売上高・営業利益推移



排ガス規制強化に対する対応

次世代排ガス規制の導入状況

HORIBA BIWAKO E-HARBORでは過去最高水準の生産量を達成



➤ 排ガスビジネス売上高

2015年
(E-HARBOR稼動前)
398億円

+25%

2018年
(予想)
490億円

➤ 排ガス規制動向

規制	EU	日本
WLTP※1	2017年9月	2018年10月
RDE規制※2		2022年(予定)

中国・インド:2020年新規制導入予定(ユーロ6同等)

※1 Worldwide harmonized Light vehicles Test Procedure
(国連における乗用車等の国際調和排ガス・燃費試験法)

※2 Real Driving Emissions(実路排ガス規制)

HORIBA BIWAKO E-HARBORの生産状況



エンジニアリング力の強化

自動車産業の開発プロセスに対し ソリューション提供を加速 **ESG ESG**

- 車両試験システム(**SUBARU社**)
 - ・気候変動など実路走行の試験状況を再現できる駆動系システムを提供
 - ・日本・アメリカのHORIBAラボと連携し、顧客の開発プロセス短縮
- 電動車技術共同開発(**ケーヒン社**)
 - ・ホリバMIRA社がBMS(バッテリーマネジメントシステム)を提供し、EVシステム開発を支援



車両試験システム



バッテリーマネジメントシステム

英国ホリバMIRA社に 「MIRA Technology Institute」開校 **ESG**

英国の産業振興基金と共同出資で設立
→次世代自動車産業の人財育成

- 24,500m²の敷地に充実した教育施設
- 地元の複数大学による運営(教師招聘)



英国産業振興基金
:LLEP※

※<https://www.miratechnologypark.com/>から引用



(2018年9月開校予定)

MIRA Technology Institute完成予定図

バッテリー評価試験設備への投資決定

リアルとバーチャルをつなぐ先進評価コンセプトの導入



電動化車両用バッテリー評価試験設備 (HORIBA BIWAKO E-HARBOR)

- バッテリー×パワートレイン & 車両の組み合わせ評価
- 幅広い温度環境試験
→ xEVや燃料電池の評価で活躍
- 2019年7月稼働予定、投資額：約13億円



先進的バッテリー開発試験設備 Advanced Battery Development Suite (ABDS) (ホリバMIRA社)



ホリバMIRA社の
エンジニアリング
能力をグローバル
展開



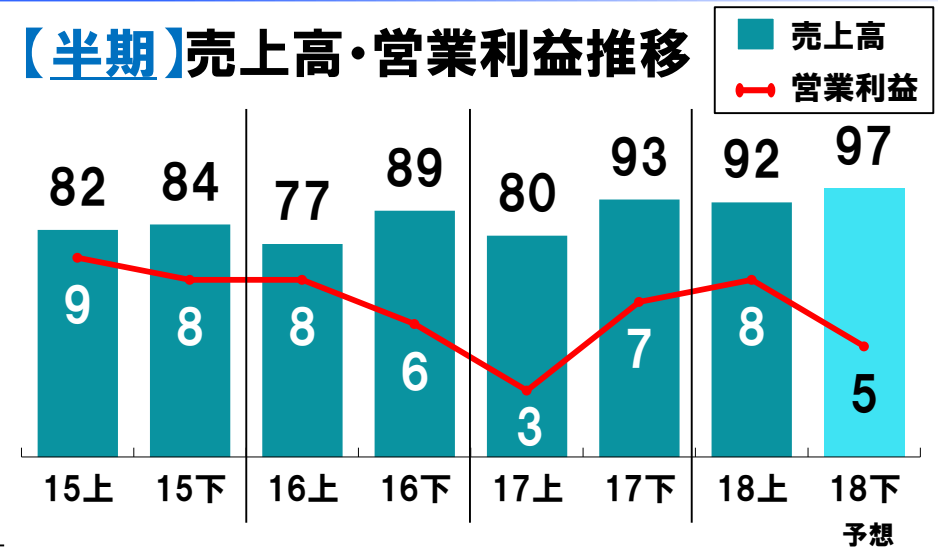
2018年上期実績/通期予想

(単位:億円)

2018年上期実績

- 【煙道排ガス】国内需要は横ばいに推移するものの、北米での営業強化により販売増
- 【大気】環境規制強化で、欧州や新興国で需要拡大
- 【水質】日本・新興国でのビジネス拡大により販売増

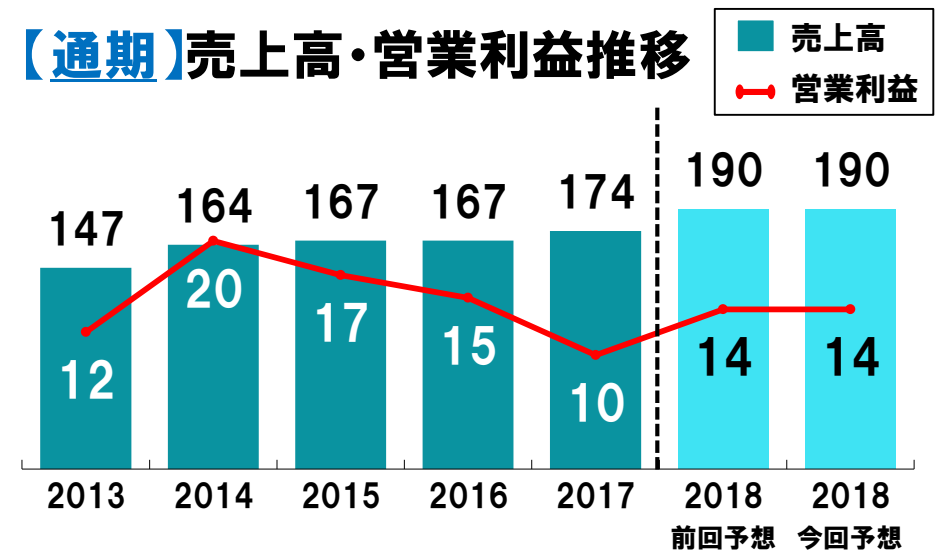
【半期】売上高・営業利益推移



2018年通期予想

- 【煙道排ガス】中国VOC規制進展にも期待
- 【プロセス計測設備】原油価格上昇による投資回復に期待
- 【水質】国内更新需要の取り込み
新興国でのさらなるビジネス拡大に期待

【通期】売上高・営業利益推移



新規市場への取り組み



アジアでのビジネス成長

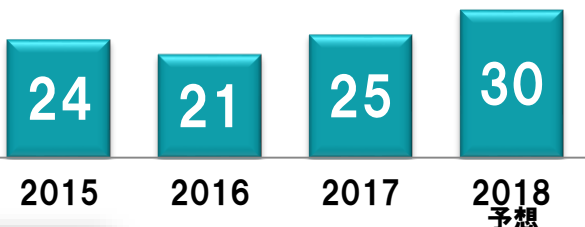


環境規制・モニタリングビジネスの拡大

- ベトナムでホーチミン市を含む6つの省・市へ
 - ・大気汚染監視装置(AQMS) 納入 + 継続受注
 - ・水質汚染監視装置(WQMS)

ホリバ・ベトナム社がリード

大気汚染
監視装置ビジネス
連結売上高推移(億円)



※1 AQMS = Air Quality Monitoring Station ※2 WQMS = Water Quality Monitoring Station



『はかるEXpress』販売開始



ハードウェア販売ビジネスから クラウドを活用したデータ販売ビジネスへ

- 自動全窒素・全りん測定装置を設置
 - ① 水質測定のリポートを提供
 - ② クラウドを活用・機器状況をモニター

堀場アドバンステクノがリード



「はかるExpress」サービス概要



堀場アドバンステクノ
代表取締役社長 堀場弾

2018年上期実績/通期予想

(単位:億円)

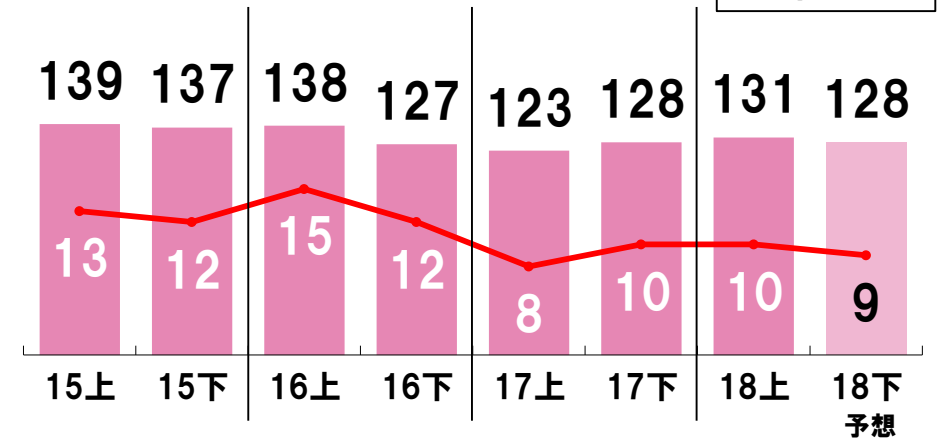
2018年上期実績

- + 日本での新製品販売好調
- + 円安による欧州向け円換算額の増加
- + 新興国(中国・インド)でのビジネス拡大

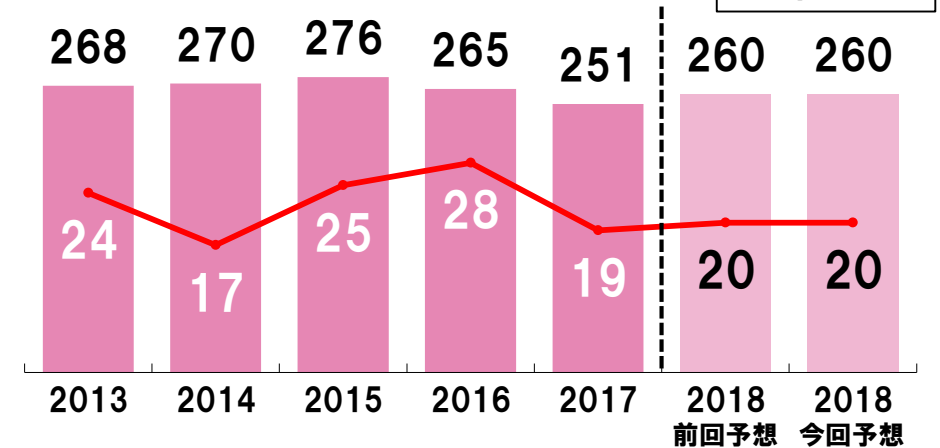
2018年通期予想

- + 日本での血球計数装置の競争激化
- + 高需要な新興国でのビジネスのさらなる拡大
- + 新製品投入による販売促進費用の増加

【半期】売上高・営業利益推移



【通期】売上高・営業利益推移



ビジネス拡大に向けた取り組み

新製品の順次グローバル展開



中大型新製品 **HELO**
「HELO Solution」
フランス、ブラジル、
タイ、イギリスにて
据付完了



ブラジルの事例

白血球5分類+CRP新製品
「Yumizen H630」

日本の開業医向けに販売好調



シーメンスヘルスケア・ディアグノスティクス社業務提携
認証取得に向けて製品調整中

アプリケーションセンター(生化学分野向け)
を開設し、米国ビジネスを加速



本稼働:2018年8月予定

場 所:米国カリフォルニア州アーバイン市

機 能:生化学分野のアプリケーション開発

生化学ビジネス連結売上高:41億円(2017年)



米国で展開予定の生化学分析装置
(日本電子株式会社からOEM供給)

2018年上期実績/通期予想

(単位:億円)

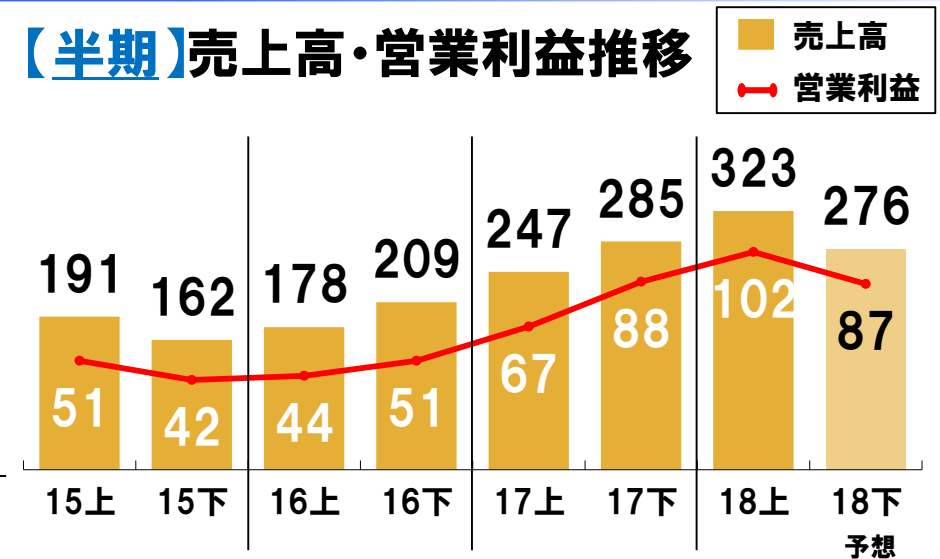
2018年上期実績

- + 売上高・営業利益ともに過去最高
- + マスフローコントローラー(MFC)の生産量は過去最高水準
- + 阿蘇工場拡張による供給能力拡大

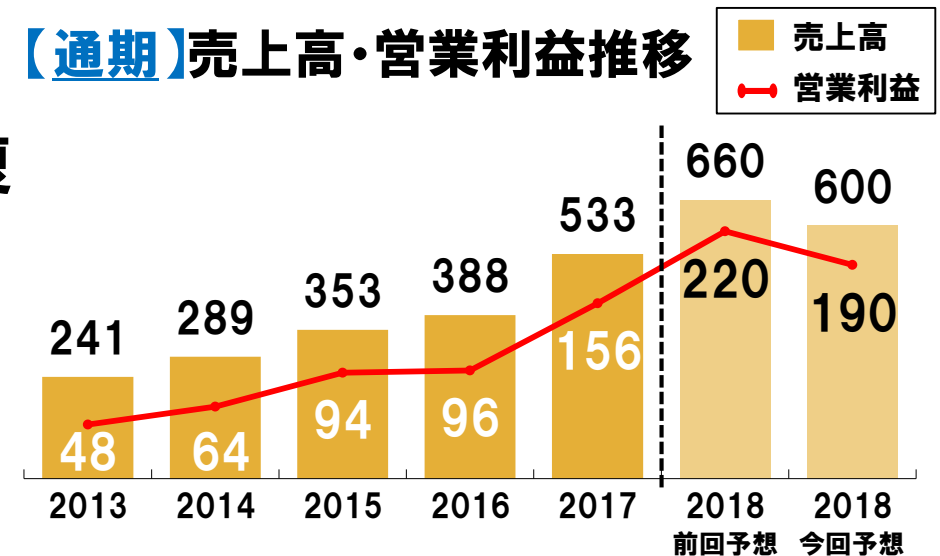
2018年通期予想

- + 足元での半導体メーカー設備投資需要は一服感も、中長期的視点での需要は底堅く、年後半の投資回復に期待
- + 国内:阿蘇工場本格稼働により、安定供給体制構築
海外:北米新開発拠点開設で、グローバルR&D体制強化

【半期】売上高・営業利益推移



【通期】売上高・営業利益推移



供給能力強化とグローバルR&D体制の確立

阿蘇工場拡張後の本格稼働



阿蘇・京都合わせて
年間35万台のMFC生産体制構築

生産状況: 2018年3月に過去最高の生産台数

阿蘇工場: 量産MFC生産

京都工場: 最先端MFC開発・生産



堀場エステック
阿蘇工場外観



竣工記念式典の様子
(5月18日)

HORIBA Reno Technology Center 開設



重要エリアの北米開発拠点を強化



グローバルR&D確立へ



本稼働: 2018年8月予定 投資額: 約12億円

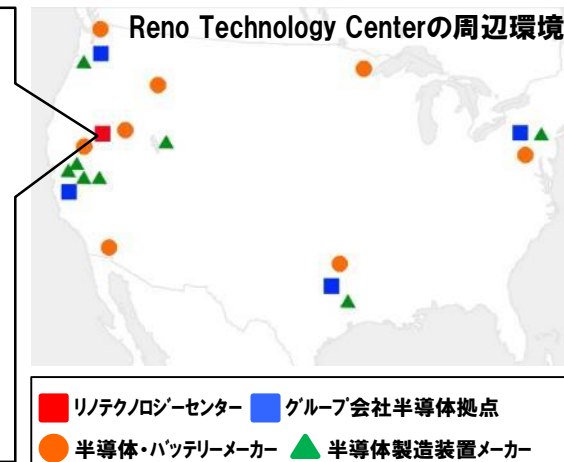
場 所: 米国ネバダ州リノ市

機 能: 流体計測・制御技術に関する開発



半導体産業集積地域への移転

1. お客様との関係性深化
2. 迅速なニーズの吸い上げ
3. 製品への反映



マスフローコントローラー世界シェアNo.1 (約60%※) を堅持 ※自社調べ(2018年現在)

2018年上期実績/通期予想

(単位:億円)

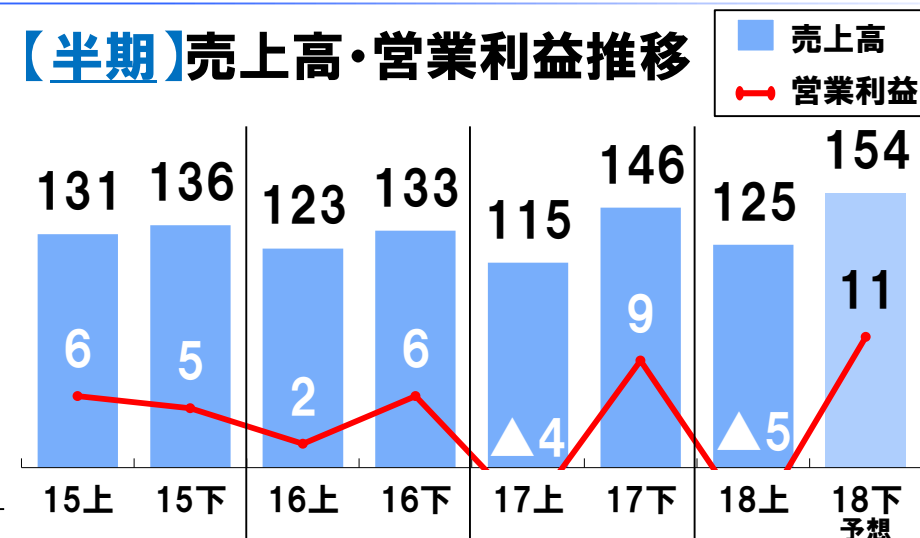
2018年上期実績

- + 企業の活発な研究開発投資を背景に日本、欧州で販売増
- + 米州で半導体向け分光器の販売増
- 米州で拠点強化に伴う費用が発生

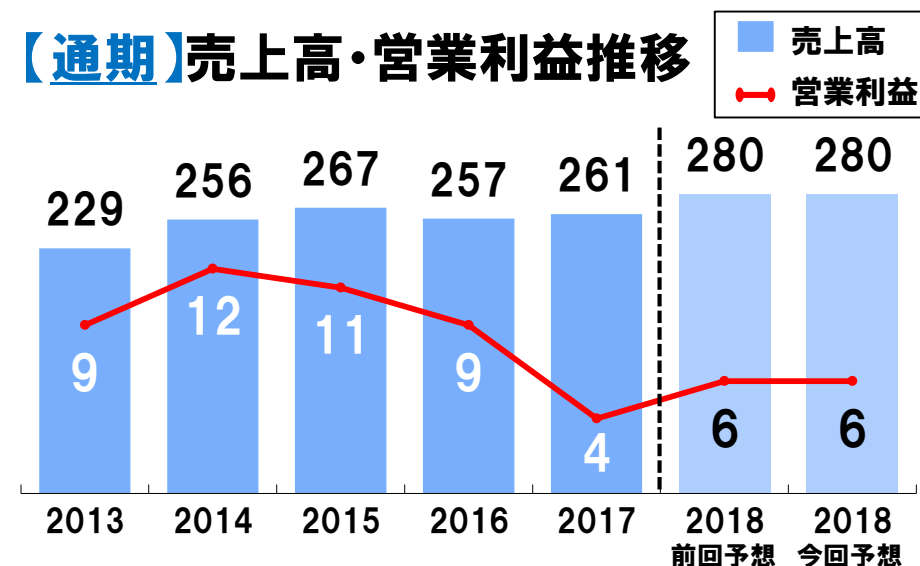
2018年通期予想

- + 引き続き国内での販売は堅調
- + 二次電池向けビジネス拡大に向けた取り組み強化
- 米州での半導体向け分光器の一時的な販売減速リスク

【半期】売上高・営業利益推移



【通期】売上高・営業利益推移



グローバル拠点強化とコアビジネスの拡大

HORIBA New Jersey Optical Spectroscopy Center 開設 ESG

本稼働:2018年8月予定 投資額:約21億円

場 所:米国ニュージャージー州ピスカタウェイ市

機 能:蛍光分光分析装置、分光器等の開発・生産

ライフサイエンス
分野への
ビジネス拡大



蛍光吸光分光装置
「DUETTA」



分光器

半導体向け
需要の拡大



HORIBA New Jersey Optical Spectroscopy Center

ラマン分光分析技術の国際シンポジウム RamanFest 2018を独自開催 ESG

日程:2018年6月25-26日

出席:先端技術の研究者・開発者中心に約100名

概要:HORIBA起案で2013年発足、今回初の日本開催

:大学・企業からの講演(16名)とポスターセッション

→アカデミアと産業を結ぶ場として機能

ラマン分光分析で50年の歴史を持つリーディングカンパニーとして市場をリード、さらなるビジネス拡大をめざす



会場の様子

ラマン分光分析装置
世界シェア:30%※



※自社調べ(2018年現在)

説明内容

- 2017年12月期 決算概要
- 2018年12月期 通期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- **株主還元**
- その他トピックス

株主還元政策

基本的な考え方

- 配当金＋自己株式取得 = 連結純利益×30% を目処
- 残りは戦略的投資資金として内部留保(設備投資・M&Aなど)

配当金及び自己株式の取得

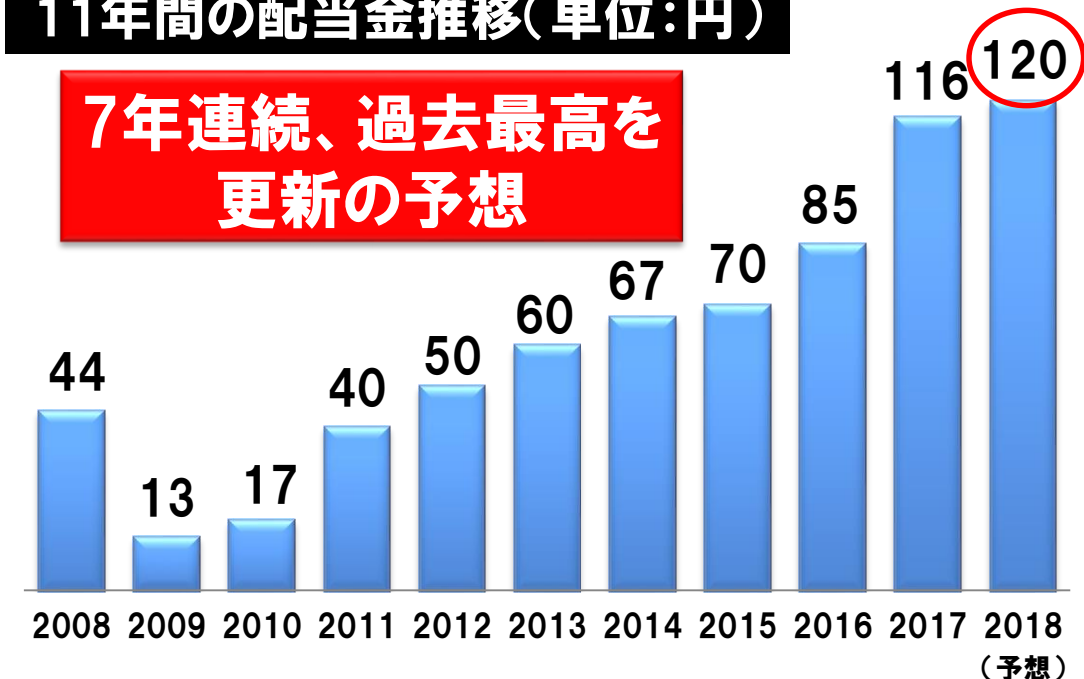
2016年実績 85円 [中間 30円、期末 55円]

2017年実績 116円 [中間 40円、期末 76円]

2018年予想 120円 [中間 50円、期末 70円]

11年間の配当金推移(単位:円)

7年連続、過去最高を
更新の予想



説明内容

- 2017年12月期 決算概要
- 2018年12月期 通期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- 株主還元
- その他トピックス

ESG投資に対するHORIBAの視点

事業を通じた環境・社会への貢献 / オープン＆フェアなガバナンス体制の構築

【活動例】



車載型
排ガス測定
システム
「OBS-ONE」

エンジン排ガス測定装置
排ガス規制進展に寄与
健康社会の実現、地球
温暖化防止に貢献



工業用水質計
「H-1シリーズ」

環境関連製品
大気汚染物質、工場
排水のなどの分析による
汚染原因特定により
環境保全・改善に貢献



電動化・自動運転技術開発
安全・快適な社会の実現



「MIRA Technology Institute」
次代を担う人財育成を
通じて産業界発展に貢献



阿蘇工場拡張
地域活性化と継続的な
雇用創出に貢献



多様な経験・スキルを持つ社外取締役
取締役会での活発な議論を通じた
意思決定で戦略の質を高め、
さらなる企業価値の向上を実現



竹内 佐和子
工学・経済学
博士としての
見識と幅広い
国際経験



杉田 正博
金融への深い
造詣と他社
での取締役・
監査役経験



東伏見 慈晃
青蓮院門主
としての卓見と
金融機関での
勤務経験

HORIBA Premium Value運用による資産効率の改善

MCT事業での資産効率改善例

- ◆ シャシダイナモの標準品生産に特化した
オルモウツ工場(チェコ)での改善
- ✓ 生産工程、サプライチェーンをゼロベースで見直し、
プル生産(かんばん方式)の採用

➡ 生産リードタイム 25%削減

新指標展開のためのワークショップ開催

- ◆ グローバル財務責任者とのアクションプラン策定
- ◆ マネージャー向けワークショップ開催

➤ アクションプラン(例)

- ・全グループ社員に向けた啓発活動の実施
- ・在庫情報共有によるグループ在庫の最適化
- ・売掛金回収のための販社=工場間の協力体制構築



オルモウツ工場外観(左)と生産エリアの様子(右)

HORIBA Premium Value

WACCを意識した新経営指標

=

営業利益

—

資本コスト

〔 投下資本 × 社内資本コスト率 〕

JASIS 2018 弊社ブースで投資家向けツアー開催



分析と創る 未来のカタチ
幕張メッセ展示場6ホール 2018.9.5 → 9.7

入場
無料

日時: 9月7日(金) 10:10~10:50

場所: 幕張メッセHORIBAブース内

概要: 主に科学セグメントの製品紹介、直近の市場動向説明

説明: 科学・半導体事業戦略室長(予定)

申込: 参加希望の方は、メールにてご連絡ください。(定員:20名)

堀場製作所 経営管理部 IR・企画チーム 天井 shunichi.amai@horiba.com



JASIS2018ホームページ
会場事前登録サイト

ご清聴ありがとうございました。